

「私の終活」

シニアスーパーバイザー
弊社元社員 安井睦華 自身の場合

らえたら、と思っています。

安井 睦華

大野屋のテレホンセンター創設以来、先頃まで二十年以上にわたって葬祭・仏事・終活などに関するお悩み相談に対応してきたシニアスーパーバイザー。



終活への注目度が高まる中、大野屋テレホンセンターへ寄せられる葬儀の事前相談に関する問い合わせ軒数は、年々増え続けており、二〇一六年十二月の集計によると二〇一一年に比べて七〇パーセント近くも増加しています。

今回は弊社社員であり、シニアスーパーバイザーとしてさまざまなお問合せにお答えしてきた安井睦華自身の終活の一部をご紹介します。ぜひご参考にしてみてください。

私の終活 その1

【葬儀の生前予約】

十五年ほど前に両親を見送ったことをきっかけに、終活をスタートし、まず葬儀の生前予約を行いました。葬儀やお寺、お墓などにかかるごまとした費用を書き出してありますので、そのメモを見れば家族がすぐに分かるようになっていました。

私の終活 その2

【遺影撮影】

大野屋では定期的に遺影撮影会を開催しています。遺影写真は葬儀に間に合わせるために家族が慌てて探した昔の写真を加工して作るよりも、今のうちから自分らしいファッションや、メイクを施した写真を残しておきたいと思い撮影しました。

私の終活 その3

【エンディングドレスの選定】

エンディングドレス、古い言い方をすれば『死装束』ということになりますが、私は母が私の嫁入りの際に、手ずから縫ってくれたお気に入りの着物を選びました。普段着ですが、あちらで待っている母に見ても



思い出の品々。

私の終活 その5

【終活で大切なこと】

終活は人生の締めくくりにあたって、自身の希望だけでなく、残された家族の気持ちや、今後のことを考えて行うことが大切です。また、終活を行い、きちんと準備しておくことで、残りの人生を大切に生きたいと思えるようになります。

お葬式のご依頼・ご相談・お問合せはこちらへ
●大野屋テレホンセンター
◆お葬式のご依頼は24時間年中無休（関東のみ）
◆ご相談・お問合せ 9:00～20:00（年中無休）

知っておきたいお葬式の事前準備

心の準備ができていたとしても、大きな哀しみの中で急いで準備をしなければならぬのがお葬式です。のちのちに悔いを遺さないためには、やはり事前にどれだけ準備をしておけるかが大切になります。

お葬式についてのアンケート調査によると『葬儀を経験して困ったこと』の第一位は『心付けやお布施の額』、次いで『通夜・告別式のお布施の仕方やお布施の額』、式次第への困惑が挙げられています。

仏式の場合、お布施の額については、お寺によって異なり、決まった価格がないため、菩提寺がある場合は直接確認しましょう。その際は、

お葬式で困ったこと	
心付けやお布施の額	35.5%
通夜・告別式の接待の仕方やお布施	22.6%
葬儀の手順がわからなかった	21.8%
予想以上に会葬者があった	16.9%
身内の中で意見の相違があった	10.5%
頼りになる人がいない	6.5%
見積以上の請求があった	4.8%
人手が足りなかった	3.3%
火葬場の手配などが不案内	3.2%
葬儀社・互助会が約束通りのことをしてくれなかった	2.0%
予定時刻の遅れ	1.0%
その他	22.7%

日本消費者協会調べ 2017年

- ①喪主を決めておきましょう。
- ②依頼する葬儀社を決めておきましょう。
- ③宗旨・宗派・宗教者の確認をおきましょう。
- ④お葬式対象者の現住所・本籍・生年月日を確認しておきましょう。
- ⑤祭壇に飾る遺影写真として、プリントされた鮮明な写真を2〜3枚用意しておきましょう。
- ⑥ご親族・ご友人など、お葬式についてお知らせする方々の名簿（フル

いざという時に慌てないためのお葬式事前確認項目

読経料、戒名料など、どこまで含まれている金額なのかも合わせて確認しておく目安です。

また、お葬式後の手続きでも、やらなければならないことはいろいろとありますが、中でも『相続に関する預金』、『生命保険』、『名義変更』については特に大事な項目となりますので、時間があるうちにまとめておくとうれしいでしょう。エンディングノートを活用するのもひとつの方法です。

お葬式のQ&A

- もしもの時、すぐに必要なものはなんですか？
- 遺影として使用するお写真、印鑑をご用意ください。印鑑は認印でかまいませんが、シャチハタは不可となります。印鑑は、市区町村へ死亡届を提出する際に必要となります。
- 何人までが家族葬となるのですか？
- お呼びする人数に特に決まりはなく、基本的に故人と御縁の深かった方をお招きするため、家族だけでなく友人や近所の方々をお呼びすることもあります。人数は二十



家族葬でもお坊さんは呼んだほうがいいですか？

家族葬という用語は無宗教式のお葬式をイメージする方が多いのですが、実は宗教上の決まりはありません。仏式、キリスト教式、神式と、どのような形でも執り行うことができます。自由な形で行う無宗教式や、明るいパーティ形式にすることも可能です。

三十人程度（同居家族と近い親族）が一般的ですが、ご家族人数だけという場合もありますし、五十人程度といった場合もあります。